



お父さんへのヒント
「ポイントをおさえる」



ガッツポーズ!!
ヒント

with
子ども

体と頭を使う、お父さんの出番!

お父さんが、わが身より大切なわが子と一生懸命に遊んでくれている姿を見ただけで、お母さんの心は穏やかになるものです。「お母さんと同じように」ではなく、お父さんだからこそできるオリジナルな関わり方ではないですか!

Run Run Run

朝食前の10分、子どもとランニングをしてみましょう。公園で30分カダッシュを1本。なんていうのも楽しいです。肝心なのは、毎朝の習慣にすること。「今日もハハとがんばった!」と、帰ってくるのが大切。お父さんも、子どもが歩き立って帰ってくる姿を見て、幸せに感じるといいと思います。

父親流の読み聞かせ

いつもお母さんが読んでいる本も「ハハ」が読むと、違うお話みたいで、いいんです。大きくなりアクションをとりながら読んだり、登場人物を増やしてストーリーを膨らませたりしていい。お父さん独自の流派を作っちゃってください。子どもは、ストーリー以上に「お父さんとの時間」を楽しんでいるんです!

囲碁や将棋

論理的な考え方や話し方を得意とする男性が、能力を発揮できる遊びです。特に、囲碁や将棋をしたあとの「感想戦」をしてほしいです。戦局を振り返って「んの手がこうだったら……」と、言葉にして質問したり、意見を聞いたりすることは、すぐれた教育メソッドのひとつでもあります。

戦いごっこ

体を使った戦いごっこは、子どもの扱いに慎重になるお母さんには不向きな遊びです。子どもは、ちょっと危なっかしさを感じることが大好きです。



お母さんへのヒント
「ほめて、伝えて」
楽になる!

お母さん、あきらめないで!

ダメダメに見えるようなお父さんも、それなりにがんばろうとはしています。大変かもしれないけれど、女僕になったつもりで演じたり、理解してもらえるように伝え方を工夫したりして、お母さんのほうからも歩み寄ってあげてください!

1 「真顔法」で仕切り直す

これだけは聞いてほしい! と思っただきには、声のトーンを落とすと、深刻な表情があらわれる。「大事な話を聞いてほしい」と思っただきには、手紙で伝える……という方には、手紙で伝える……と切り出すのです。夫に「ただ事ではないな」と思わせればまずまず。そして、「修飾語は省き、要点をきっちり伝える」のです。このときは、あらかじめ書いたことをしっかりメモ書きにして、淡々と話すのも効果的だと思います。

2 手紙で伝える

話し始めて「あれ?」と言われるのもいいですし、あきらめずして、イラストがつく……という方には、手紙で伝える……と切り出すのです。夫に「ただ事ではないな」と思わせればまずまず。そして、「修飾語は省き、要点をきっちり伝える」のです。このときは、あらかじめ書いたことをしっかりメモ書きにして、淡々と話すのも効果的だと思います。

3 とにかくほめちやう!

多くの男性は単純明快。勝ち負けで生きていて、プライドの塊のようなものです。「さすが!」「ほんまな場面でも使えて、簡単に父親を褒めたい気持ちにさせる万能ワード。連発させて、上手に使ってください。逆に、いらぬ部分や弱点を妻から指摘されるのは、聞きにくいことです。『あーあ……』と思っても、多少のことには聞き流しして、目をそらさず受けつけてあげてください。



「花まる学習会」式
入学準備ドリル
を10人にプレゼント!

応募方法
郵便がききに、郵便番号・住所・電話番号、保護者の氏名、お子さんの氏名(ふりがなも)・性別・年齢を明記のうえ、〒112-8001 講談社 たいのしい幼稚園「花まる学習会 プレゼント」係までご応募ください。しめきり 2020年12月25日(当日消印有効)
当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。この号の他の応募に当てはまらない場合があります。



高濱正伸の毎日子育て
ガッツポーズ

PROFILE
花まる学習会 代表
高濱正伸先生

東京大学農学部卒、同大学農学系研究科修士課程修了。1993年に「作文」「読書」「思考」「野外体験」を重視した、小学校低学年向けの学習塾「花まる学習会」を設立。父母向けの講演会は、年間3万人が参加。「情報大陸」など数々のドキュメンタリー番組でも取り上げられ話題に、「小3まで」で育てたい「算数脳」「わが子を」「シガ食え大人に育てる」など著書も多数。



第3回「夫婦関係を見直して花まる子育て!」

男女から夫婦、そして父母となった二人の関係は、劇的に変化しているのですから更新も必要です。笑顔で子育てを楽しんでいくためには、一時立ち止まって、夫婦のあり方をお互い見つめてみませんか?

見直す夫婦関係
アップグレードする
夫婦関係を

お母さん方からの悩みは、子育て方針がらしつけ、習い事など多岐にわたりますが、それと同時に子育てに関わる夫への不満もかなりのボリュームで寄せられます(笑)。とくにコロナ禍で生活環境が一変。家族が「密になったこと」で今まで見なかった「聞かなかったこと」にストレスを感じて、たまたまが気になりはじめて、不平等が噴出してきたという家庭も少なくないようです。そこで、こんな時期だからこそ、夫婦のあり方についてお互い見つめて直し、楽しく子育てができる関係の再構築をしてほしいと思います。そして、育った環境や価値観も違う異なり、妻も夫と妻も男女、物の見方や捉え方、感じ方がまるで違う生き物です。まして、育った環境や価値観も違う異

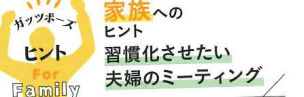
見直す夫婦関係
妻を愛す!
メタモルフオーゼした

とくに女性は、母になることによって、とても多く運ばれたい生き物となります。それは、子育て中の母親が神経質なのと同じ。本能なのです。命がけで産んだ大切な子どもを守るためには、夫にささやきをまく勢いがあがるのです。「恋愛時代、あんなにかわいらしかった彼女がきつくなって、自分に突っかかってばかり」とほやほやお父さんは、そのころをまず理解してほしいと思います。そして、わが子のために優しく、愛を注ぎ、それと、妻を「メタモルフオーゼ」した、尊敬すべき妻に! 女性は、子どもが生まれる瞬間から「母親」の顔と覚悟をもてるけれど、男性は、育児の関わりながら母親の体感も共有し、「父親になる」ことを意識し上げなければ、子の親としての妻と同じ土俵に上がることができないのです。だからお母さんも、「歩遅れて、親」になっていく夫を、やさしい気持ちで見守ってあげてほしいと思います。

見直す夫婦関係
妻は、とにかく話を聞いてほしいのです

お互いがまるで違うビジョンで生きていくことを理解していないと、全てがズレていってしまうので気を付けてください。例えば「妻が、ちょっと聞いて」と話しはじめるのが、それで「結局何?」と、夫は口をばさむがち。これこそが「地獄へのパスポート」となる。これを夫は学習しなくてはなりません。男性は、要点と結論にしか興味がなく、オチの無い話ばかりでつまらない。しかも、話は起承転結がついていらない。しかし重要。四方に伸びた枝葉の話にもそれそれ意味があり、聞かれないとなんか、なんかない解決策は、ついに決めているので、アドバイスもなくなっていくので、これはもう話を聞いてほしいのです。これはもう男性側からすれば、「女性とは違う!」というだけ、時に「お母さんだつて、一緒に考えてほしい!」話ありますよ! 話があるときは、「ちゃん」と聞いて、「感を出し」話しはじめないと、夫にサラッと聞き流されてしまい、聞いてなかったの? なんて、違う? という感じがしてしまつて、気がつけなくなってしまう。それを回避するためには、「真顔法」で話を聞いてほしい。夫婦間、子育て、時間をもてらして、きちんと話し合う時間をもてるようにして、お父さんも大切に

10分でガッツポーズ! 思っているものを、大切に。



家族へのヒント
習慣化させたい
夫婦のミーティング



習い事やお受験といった問題があがってきたときに初めて、夫婦それぞれが描いていた、教育方針や将来のビジョンを知り、価値観や方向性がかなり違っていて驚き、揉めはじめ、大ゲンカに発展……ということも少なくないでしょう。これは、子育てに限らず家庭の将来設計についても同じ。異文化を持つ夫婦の考えや価値観をすり合わせていくには時間がかかります。一緒に暮らしていれば自然にわかる、というものでもありません。そこで、すすみたいのが「ミーティング」の習慣化です。テレビを消して、スマホも触らずに少々改まって話す時間を設けるのです。「出来事報告」から「貯蓄や保険」「家訓」等々、ふだんからお互いの考え方を話し、直近で決めたいことについてもしっかり話し、すり合わせの時間がたっぷりもてますし、揉めたとしてもごく小さいもので収まるといいと思います。